

令和8年度 世田谷美術館友の会総会

5月10日(日) 参加者36名 委任状275名 計311名(会員数620名)

総会は、山崎勉代表世話人から来年度友の会は発足40周年を迎えること、今後も世田谷美術館と友の会が関係を一層深めていきたい旨の挨拶で始まりまし

た。続いて、橋本善八館長からは、友の会発足時の設立趣旨にまつわる「友の会の会員は上も下もない。美を享受するという点ではみんな平等だ」とのお話を賜り、美術館職員の紹介へと続きました。

議事は、令和7年度事業報告、決算報告、監査報告について、収入の部及び支出の部の事業費における催物開催、講座開催、研修交流費の表記のご要望には今後に検討・対応するとし、支出の部の人件費のご質問には詳細説明を行った結果、拍手をもって承認されました。

令和8年度事業計画案と予算案について、支出の部の事業費における研修交流費のご質問には、今後の実態に合わせて収入・支出ともに変更の可能性があることを説明した後、拍手をもって承認されました。

その他では、来年度以降の会員特典のご質問に対し、適宜お知らせしていきますが当面は会員更新手続きのご案内で「2027年度は会員の特典の一部が受けられなくなる見込み」とお伝えしていることで了解されました。

(友の会総務部)



友の会主催 解説・鑑賞会

ミュージアム コレクション特別篇 開館40周年記念
「世田美のあしあと——暮らしと美術のあいだで」
解説：樋口菜呂奈 学芸員

3月10日(火) 参加者38名

解説・鑑賞会に参加して

植村邦生

3月10日、解説・鑑賞会に参加しました。講堂で、学芸員の樋口さんから展覧会の趣旨や展示内容の説明をお聞きし、そのあと会場を歩きました。

今回気がついたのは、美術館の中の建物、そして建物の窓から見える外の景色も眺めながらゆっくり歩くとよいということです。気分が落ち着いてきて、作品もゆっくり鑑賞できました。

館内が静かなのも、とても良いと思いました。「世田美のあしあと」ということで、陶器、絵画、彫刻、それぞれ様々なものが展示されています。好みのものをゆっくり見て会場をめぐりました。解説で素朴派、世田谷ゆかりといった世田谷美術館の特色のことをお聞きしましたので、そんなことも頭に置きながら鑑賞しました。

今日は成城学園前駅からバスで来て、帰時も停留所までの道すじを覚えました。散歩がてら気軽に来て、美術館になじんでいこうと思っています。



友の会主催 解説・鑑賞会 「つぐ minä perhonen」展 解説：加藤 学芸員

1月8日(木) 参加者48名

「つぐ」さがし」のヒントを頂きました

山本有子

この企画展示にもう6回は来ていました。1階の広々とした会場に「なんだか好き」と思ったからです。「ちょっとだけ」と入った日でも生地の文様を見ているうちに時間が経ってしまい途中から早回しのようにみて帰宅していました。

1月8日(木)解説会ではエントランスのこだわりについても教わりました。

- ・巨大なのれん風の壁飾りは、ソファなどに用いる家具用の素材
- ・黒板画にも見える猫たちの絵の制作の様子

「さて、猫ちゃんは何匹いるでしょう？」加藤学芸員の問いに、解説会のあとで数えました。美術館の庭から窓いっぱい生地模様が見えるよう工夫されていると聞き、夕暮れの庭へ。庭は「枝が落下するので立ち入り禁止」となっていたので遠目で確認しました。

盛りだくさんの解説と企画展示を楽しめました。ありがとうございました。



分館ギャラリートーク

向井潤吉アトリエ館
「没後30年 向井潤吉 心の交流記
——民家を訪ね、描く楽しみ」展
解説：池尻豪介 学芸員

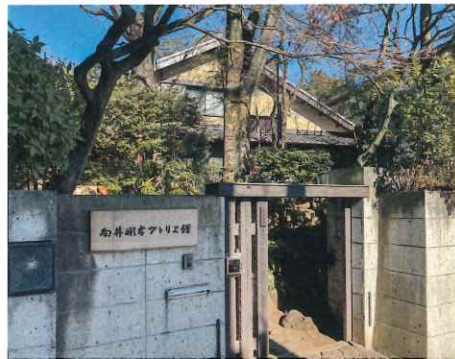
1月22日(木) 参加者10名

洋画家・向井潤吉(1901-1995)のアトリエ兼住居を改装した趣のある館内で、毎回の展覧会にあわせて開催されるギャラリートークは、担当された学芸員から開催の狙いや見どころ、向井潤吉のひととなりや直接伺える貴重な機会となっています。

“民家の画家”と呼ばれる向井が残した油彩作品と、現地の人々との交流を示す水彩作品、それらに関連する紀行文をあわせることで彼の半生を捧げた旅の軌跡を紹介した本展のギャラリートークは、聞き手が一層作品の中に入り込むことのできる新たな感動を覚える時間となりました。参加者の中には、顔なじみの方もいらっしゃれば、初めての方もありで、皆さんに合わせるべく工夫された話しぶりも印象的でした。

池尻学芸員は10年間にわたり向井館担当として、数多くのギャラリートーク、本当にありがとうございました。4月1日からの「向井潤吉の滞欧体験——若き研鑽の日々、そして民家へ」展では樋口菜呂奈学芸員が担当されるとのことです。

(友の会総務部)



油彩講座

講師：早矢仕素子

1月16日(金)～3月6日(金) 全8回 参加者21名

絵画で繋がる

中村和俊

この春、娘が美術の大学に進学します。高校でデッサン・油彩を学び、はじめは「こうしたら？ ああしたら？」なんて(ウザい父親の典型)言っていたものの、3年間でみるみる上達(親バカ目線)していく様を目の当たりに。そうすると、ふつふつと湧き上がる自分の感情。「子供の批評なんてできる立場か？ そういえば自分も若い頃は絵を描く事が好きだった。なんか油絵ってものに憧れがあったな…。」

昔から世田谷美術館にはよく鑑賞に来ていました。アンリ・ルソーやアンソニー・グリーンなど、素朴な絵が好きです。昨今はネットでどんな名作でも見られるけれど、モニター越しでRGBに再分解された絵を見るのに対し、今この空間に「絵の具で描かれた実存する物体」としてナマで観る事は、それを描くのに要した手間・時間・感情が観る者と繋がり、押し寄せてくる“感動の量”が比べものにならないと思います。(たとえ素人の絵であっても)

それで私は「油絵」を「自分で描く」ことに決めたのです。「1月から油彩講座行くんだけど、どんなセット買えばいいかな？」「世界堂で聞けばー？」娘からはつれない応え。もうちょっと繋がりたい…。



私のお薦めアート本

『定本 和の色事典』 視覚デザイン研究所

絵本を開くように！

田辺千恵子

皆さんは「新橋色」しんばし色という色名があること御存知ですか。別名「金春色」ともいわれ色の系統としては鮮やかな青です。東京の新橋が由来の色名。明治末期から大正時代にかけ流行、青色は本来理性や堅実さを表す色ですが、新橋色だけは華やかで艶っぽいイメージで美人画にも使われ人気となり、この鮮やかな青を先端を切って和服に取り入れて愛用したのが新橋の芸者だったとか。

今回取り上げた本は『定本 和の色事典』です。古代や近代の色彩については膨大な研究が行なわれ残されていますが、平成20年発行されたこの本は和の色に特化した事典、つまり辞典に記載されるような単なる色名だけでなく、一つの色の背景にあるもの、色名の由来や歴史など、色に関した色々な面白みや沢山の情報が写真と共に展開されています。色名も実に1291色と多く、牡丹色、紅、苺色から始まり浪花鼠、緋色、最後の赤墨と続きます。

ちょっとした時間のある時にたまたま開いたページの色名を読み解くと、きつと色に潜む深い文化の香りを味わうことができる筈です。



デッサン講座

講師：早矢仕素子

1月14日(水)～2月25日(水) 全4回 参加者20名

デッサン講座に参加して

藤本由美子

私は大人になって世田美や友の会に関わるまで、絵を描いたり習ったりしたことが無く、まったくの素人、と言えらると思います。その素人が絵を習うにあたって、自分に言い聞かせたことがあります。それは、上手いねとか、イイねとか、褒められることをゆめゆめ期待しないように！というこでした。素人なので、褒められるはずも無いのですが、もしかして自分では気づかない天賦の才能があったとか… そんなはずはないのに、素人ほどかえって、こういう邪な期待を持ちがちです。さらに、技術が無くても味があるとか… 世田美だからといって、ヘタウマを狙うのは、最もやってはいけないこと。ヘタウマは結果であって、狙うものではないはず。しかし、これらのヨコシマな心を抑えて、なるべく純朴に、愚直に向き合うと、絵を描くということとはなんと楽しいことでしょうか。白い紙の上に、鉛筆や炭で指を真っ黒に汚しながら、目の前の物体や石膏や人物や… それらを写しとることが、なぜこれほどに楽しいのでしょうか。それを知っただけでも、素人の私にとっては大きな大きな収穫でした。



みんなのギャラリー

なんでもありの心境

吉居幸子

長い間、画題を花に絞って描いてきました。

最近、年のせいもあり、好きなように描いてみようと思いたちました。気の向くままに描く。何ができるか予想もつかない。色も形も自由。描き方も素材も自由。なんでもあり。描いては消しの繰り返し。昨日の絵は今日は跡形もなかったりする。なんとも自由で楽しい。楽しく描くことを忘れていた事に気づかされました。

今は地塗りなど従来のやり方は続けていますが、それもうなることやら。

勝手気ままに描くというスタイルは、なかなか気に入るものにたどり着かないというのがつらいところ。絵は止め時が難しいけれど、こういう描き方では、ますます終わりが無くなり描き続けられる。そして最終的にすべて愚策、駄作に終わってしまう可能性大。ま、でも楽しいし、しばらくはこの方法で描いてみようの心境です。



第40回 アート散歩

インターメディアテクと丸の内ストリートギャラリーへ！

3月19日(木) 参加者16名

丸の内のアートを訪ねて

佐野一雄

ちょうど桜が開花した日の午前、東京駅すぐそばの旧東京中央郵便局舎のKITTE前に集合しました。この2、3階部に2013年に誕生したインターメディアテク、東京大学の入場料無料の博物館を訪問です。

昭和初期モダニズムのレトロモダンな趣ある館内に入ると、東大が1877年の開学以来蓄積してきた学術標本の数々が常設展示されていました。まず目を引くのがクジラやキリンなどの巨大な骨格標本。さらに動植物、宇宙、工学、ミイラ、蓄音機、宗教美術など、膨大な数の資料で埋め尽くされていて、アッという間の50分でした。絵画制作を趣味とする私には、着想のヒントになる宝庫のような空間でした。

続いて、歩いて数分の丸の内仲通りに。丸の内ストリートギャラリーとして、ブランドショップ並ぶビル間の歩道に魅力的な彫刻作品群が展示されていました。中でも舟越桂の初の着彩ブロンズ作品《私は街を飛ぶ》は、舟越ファンの私としては嬉しいものでした。

最後は三菱一号館美術館中庭で現地解散しましたが、いつものアート散歩とはひと味違った、文字通り大都会のど真ん中をおしゃべりしながらアートに触れられる楽しい企画でした。近くには東京ステーションギャラリー、静嘉堂文庫美術館などもあり、気軽に再訪してみたい穴場だと思いました。



世田谷美術館・友の会共催 世田谷美術館さくら祭

3月28日(土)・29日(日)

快晴の空、満開の桜と絶好の条件のもとで盛大にさくら祭が開催されました。

広場には、友の会や世田谷美術館美術大学修生、鑑賞リーダーによるフリーマーケットや川場村の物産展が並び大好評でした。

今回は、開催中の展覧会「世田美のあしあと—暮らしと美術のあいだで」の関連で「ルソー人形くんと美術館でお花見スタンプラリー」、100円ワークショップ「お花見ざんまい」、その場で参加できる「世田美でサンパ」等のたくさんのイベントが行われました。また世田谷美術館のレストラン「ル・ジャルダン」やカレー & DJ「東京カリ〜番長」のキッチンカーの出店もあり、家族でさくら祭に参加されている光景もみられ和やかな楽しい2日間となりました。

友の会のフリーマーケットでの売り上げは63,060円となり友の会の基金に組み入れました。たくさんの物品提供やボランティアで参加して下さいました皆様、ご協力ありがとうございました。(友の会広報部)



美術館人事異動

4月1日付け異動がありました。
よろしくお願いします。

副館長
総務部長事務取扱
工藤 郁淳



これからの事業について

- ◎ 会員作品展 11月18日(水)～22日(日)
 - ◎ 木口木版画講座 9月2日～10月7日(水)全6回
 - ◎ デッサン講座 9月25日、10月2日、16日、23日(金)全4回
 - ◎ 水彩画講座 10月14日、28日、30日、11月6日(水)(金)全4回
 - ◎ 油彩講座 1月15日～3月5日(金)全8回
 - ◎ 美術講座 予定
 - ◎ 解説・鑑賞会 企画展・ミュージアム コレクション展ごとに予定
- ※2026年度の各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆様にチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。

世田谷美術館友の会に入会しませんか！

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「藝術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポーター・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。

お問い合わせは友の会事務局へ

入会案内(リーフレット)や下記ホームページもご覧ください。
Tel. 03-3416-0607
<https://setabi-tomonokai.jp/>

